

シャインマスカット生産技術の向上による 品質向上（大粒化）と面積拡大

農業技術振興センター革新支援部

【普及活動のねらい】

本県では、「シャインマスカット」をブドウの推奨品種に位置づけ、高品質生産と面積拡大に取り組んでいます。令和元年度は、栽培経験の浅い生産者が多いことから、品質向上技術の現地実証に取り組み、「シャインマスカット栽培マニュアル」を作成しました。

今年度は、栽培マニュアルの実践による品質向上（大粒化）と、面積拡大に取り組みました。

【普及活動の内容】

ブドウの品質向上には、大粒化と適切な房重の確保が重要となります。

そこで、①新梢の配置間隔、②開花始め期の新梢先端の摘芯、③穂長の調整、④摘粒数の調整の4つの技術を確実に実践してもらうため、産地研修会の開催や現地巡回を関係機関と連携して行いました。

また、栽培終了後（11月時点）には、生産者にアンケートを実施（回答44人）し、技術の実践状況を把握しました（表1）。

8月には、新規栽培者確保に向けた技術研修会を花・果樹研究部で開催し、栽培者の掘り起こしを行いました。

【普及活動の成果】

果粒の大きさの基準となる10g以上を、89%以上の生産者が達成できました（図1）。さらに65%の生産者は1粒12g以上を確保し、大粒化生産が実践できました。房重の基準となる1房500～600gを51%の生産者が達成できましたが、約半分の生産者が房重500g未満や600g以上となり、房づくりや摘粒技術について引き続き改善が必要なが分かりました（図2）。

「シャインマスカット」の栽培面積は、今年44a増え314aとなり、当初と比較して約4倍に栽培面積が拡大しました（表2）。

シャインマスカットは、直売所や量販店におけるニーズが高く、栽培面積の拡大が予想されることから、引き続き品質向上に向けて支援していきます。

◎対象者の意見

新梢摘心をしっかり行い、摘粒もできたため、昨年と比べて大粒で房も大きくなり、味も良くなり、今年のブドウの出来に満足しています（生産者）。

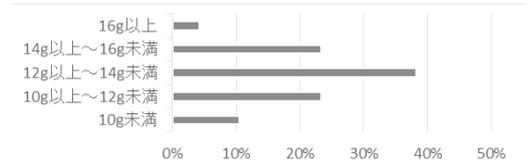


図1 生産者の粒の大きさの分布状況

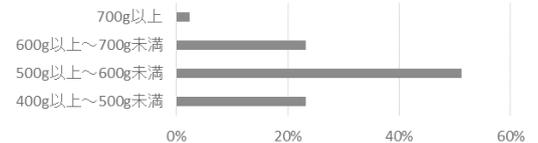


図2 生産者の房の大きさの分布状況



写真 夏季に開催した研修会

表1 技術を実践できた生産者 表2 栽培面積の推移

技術内容	実践率	年度	面積
新梢の配置	87%	H29	74a
新梢の摘心	50%	H30	186a
穂長の調整	51%	R1	270a
摘粒数の調整	68%	R2	314a